

# 第4学年国語科学習指導案

令和5年10月4日（水）第5校時

新宿区立戸山小学校

4年1組 35名

指導者 高松 和

研究主題 言葉を豊かにし、自分の考えや思いをもち表現できる児童の育成  
～国語科指導法の充実～

1 単元名 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう

学習材 ごんぎつね

## 2 単元の目標

- ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。
- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもったり、進んで友達と交流したりしようとしている。
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。

## 3 単元の評価規準

知識および技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 【(1)オ】	・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。【C(1)エ】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。【C(1)オ】 ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。【C(1)カ】	・進んで物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。

## 4 単元について

(1) 児童の実態 (児童観)

本学級の児童は、活発な児童が多い。状況によって、学習に意欲的に取り組むことができる児童もいる。一方で、集中が長く続かない児童もおり、自分の考えをもったり、意欲的に読み取りの学習をしたりすることに課題のある児童もいる。また、本学級には、外国にルーツがある児童が複数人在籍している。外国にルーツがある児童は、家庭内言語が日本語ではないことが多く、日本語の習得が難しい状況にあり、日本語の読み取りや表現が不得手な児童が多くいる。

物語教材「白いぼうし」や「一つの花」で、登場人物の会話や行動から登場人物の気持ちの変化を読み取る学習を行ってきた。叙述に基づいた読み取りを意識させることで、自分の考えを話せる子が多くなってきた。その中で、登場人物の気持ちを想像することができるが、「悲しい」「うれしい」など端的な感想になってしまい、自分の考えを豊かに表現することに課題がある。そこで、本単元を通して、児童が読み深めたいと思うことができる課題の設定や、作者の表現の仕方や作品からのメッセージに対して、叙述に基づく根拠を見つけ自分の考えを深めることで、感想を豊かに表現できる力を身に付けられるようにしたい。

(2) 単元設定の理由 (単元観・教材観)

本教材「ごんぎつね」は、「1」から「6」の場面で構成されている。「1」から「5」までは主人公「ごん」の視点で書かれており、ごんの心情やその変化が捉えやすく、叙述を根拠に想像しながら読む力を育てるのにふさわしい教材である。

「6」の場面においては、視点がごんから兵十に転換しているために、ごんの心情は描かれていない。しかし、この視点の転換により、ごんと兵十のすれ違いに気付くことができ、そこからごんの心情を考えることができる。ごんにとっては、自分と同じ一人ぼっちであり、償いをする対象であったが、その兵十にとってはただの盗人ぎつねでしかない。物語全体のごんの心情の変化を通して、このすれ違いについて考えることで、読みを深めることができると考える。

また、人物の心情を表す情景描写や、心情が変化するきっかけなどが的確に表現されている。情景描写がもたらす効果についても触れつつ、中心人物は「どこで」心情が変化しているのか、既習事項を活用しながら読んでいきたい。

(3) 単元の位置づけ

時期	学習材名	学習内容
3年	「ちいちゃんのかげおくり」	・物語の出来事を自分なりに捉え、感想をもつ。
4年	「白いぼうし」 「一つの花」 「ごんぎつね」 「プラタナスの木」 「初雪のふる日」	・言葉に注意して、場面と場面のつながりを見付ける。 ・特別な言葉に着目し、作者の思いに迫る。 ・話し合っ、人物や物語に対する考えを深める。 ・人物の変化と、出来事の間係を捉える。 感想を交流することで、感じ方の違いを楽しむ。
5年	「たずねびと」	・物語の全体像から考えたことを伝え合う。

5 主題にせまるための手立て (戸山スタンダードを基準に)

○電子紙芝居の読み聞かせ

物語中に「菜種がら」「小川のつつみ」「はぎの葉」「かみしも」「お歯黒」など子ども達には馴染のない言葉が多く出てくる。そのため、最初の授業で実際の写真などを電子紙芝居として提示しながら読み聞かせを行う。また、葬式の鐘の音や木魚の音などを場面ごとに流して、物語の中の雰囲気を感じ取れるように範読することで、児童がより興味を持って物語を捉えられるようにすることで、より鮮明に初発の感想を持てるようにする。

○ふりかえりの視点の確立

授業終わりのふりかえりの視点を確立する。ふりかえりのキーワードとして「T (友達のよかったところ)、O (思ったこと)、Y (やり方、工夫)、A (新たな気づき)、M (もっと知りたいこと)、A (あなたの未来につながること)」を児童に浸透させ、児童がふりかえりを段階的に取り組みやすいようにする。また、ふりかえりの共有を通して友達の考えを知り、自分と相手の違いを意識することで、学校生活においても他者との関わり方を考えられるようにしていく。

○学習課題の工夫

本単元では、「ごん」の言動や細かな描写から「ごん」の心情の変化を考えることに重点を置いてい

る。場面ごとに話を深める学習では、毎時間「ごん」の心情がどう変化していったのかをノートにまとめ交流する。単元のまとめでは、初発の感想からの自分の考えや感じたことの変化を捉える活動を行い、物語を読み深める素地を養っていく。

○情景描写への着目

人物の会話や行動だけでなく、ごんや兵十のおかれている状況を理解させるために、「はぎの葉がへばりついた顔」や「かげぼうしをふみふみ行きました。」などの場面ごとに書かれている細やかな情景描写に着目し、人物の気持ちや出来事を通して変化した感情を考えさせる。

6 学習指導計画（全12時間 本時8時間目）

時	○学習活動	指導上の留意点	◆評価規準・評価方法等
1	○題名とリード文から、作品のイメージを膨らませる。 ○全文を通読し、感想や考えを書く。 ○分からない言葉や表現を確認する。	・P4～8や、P11の「これまでの学習」を基に既習事項を振り返らせ、本単元にいかす意欲をもたせるとともに、題名やリード文からどんな物語かを想像し、話し合わせる。 ・分からなかった言葉や物を電子紙芝居で確認する。	◆既習事項をいかして読み、登場人物の気持ちを捉えている。(発言・記述)【思】  ◆単元目標を理解し、すすんで「ごんぎつね」を読んで、学習計画を立てようとしている。(発言)【主】
2	○感想を交流し合う。	・気持ちのすれ違いによって悲しい結末になったことに気付かせ、物語の主題に「すれちがい」「つぐない」があることに気付かせる。	◆単元目標を理解し、すすんで「ごんぎつね」を読んで、学習計画を立てようとしている。(発言)【主】
3	○単元の学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ○情景 ○振り返りの書き方を知る。 ○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	・児童の感想や疑問などから、計画を立てる。 ・TOYAMAの振り返りの仕方を確認する。	
4	○本時の学習課題を捉える。 <b>課題</b> ごんはどんなきつねだろう。 ○「1」の場面前半(ある秋の前まで)を通読し、物語の設定を確認する。 ○ごんがどんなきつねなのかについて話し合う。 ○村人の思いを想像する。 ○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	・設定が分かるところにサイドラインを引く。  ・ごんはどんなきつねといえるか、ノートに書く。 ・振り返りの視点に沿って振り返りを書く。	◆場面の場面を結び付けたり比べたりして、登場人物の気持ちの変化を読み取っている。(記述・発言)【思】  ◆情景描写や会話等の表現や叙述を基にして、登場人物の気持ちを想像している。(記述)【思】
5	○本時の学習課題を捉える。 <b>課題</b> ごんはどんな気持ちでいたずらをしたのだろう。 ○ごんが兵十にしたいはずらについて読み取る。 ○ごんの行動や気持ちが分かる場所に線を引き、行動と、そこから想像した気持ちを、ノートにまとめる。 ○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	・情景の意味を確認し、登場人物の気持ちが分かる言葉がなくても、情景から人物の気持ちを想像することができることを確認する。	◆読んで理解したことに基づいて、感想をもっている。(記述・発言)【思】  ◆友達の感想や考えを聞き、感じ方などに違いがあることに気付いている。(記述・発言)【思】

6	<p>○本時の学習課題を捉える。  <b>課題</b>          ごんの気持ちはどのように変わったのだろう。          ○「2」の場面を読み、葬式を見た後のごんの気持ちを考える。          ○ノートに書いたことを基に話し合う。          ○「1」の場面と比べて、ごんの気持ちはどのように変化したかを考える。          ○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文と心内文の「」かぎの使い方が異なっていることに気付かせ、ごんの気持ちを考えさせる。</li> <li>・ごんの「思う」ところと「考える」ところがあることに着目させ、ごんの気持ちを想像させる。</li> <li>・友だちの意見を聞いて、納得したことや考えたことを書き加えるように促す。</li> <li>・「1」の場面と比べて、ごんの気持ちはどのように変化したかを考える。</li> </ul>	<p>◆自分なりの問いをもって文章を読んだり、友だちの発表を聞いたりして、より豊かに登場人物の気持ちを想像しようとしている。(記述)【主】</p>
7	<p>○本時の学習課題を捉える。  <b>課題</b>          ごんは兵十のためにどんなことをしてなにを思ったのだろう。          ○「3」の場面を読み、ごんの行動と、兵十への気持ちの変化をとらえる。          ○考えたことをもとに、友達と話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの言葉に着目すれば、兵十に対するごんの気持ちが想像できたかどうかについて考えさせる。「二人」と「二人きり」などの語句を比較し、寂しさや罪の重さの伝わり方が異なることに気付かせる。</li> </ul>	
8 本時	<p>○本時の学習課題を捉える。  <b>課題</b>          ・なぜごんは後をついていったのだろう。          ・「神様の仕業」と言われたとき、ごんはどんな思いだったのだろう。          ○「4」「5」の場面を読み、兵十と加助の後をつけるごんの気持ちを考える。          ○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんの気持ちを想像する際に、自分だけが答えを知っていながら黙っていたことがあるか問いかけ、その経験を重ねながら考えさせる。</li> <li>・ごんには兵十に気付いてもらいたい気持ちがあることを感じ取れるようにする。</li> </ul>	
9	<p>○本時の学習課題を捉える。  <b>課題</b>          ・兵十の気持ちはどのように変わったのだろう。          ・兵十の言葉を聞いてごんはどんなことを考えたのだろう。「6」の場面を読み、ごんに問いかけた兵十の気持ち とうなずいたごんの気持ちを考える。          ○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語り手の立場が変わったことの効果を確認する。</li> <li>・ごんを撃つ前と撃ったあとの兵十の気持ちの変化を考えさせる。</li> <li>・物語の結末はごんにとって納得のいくものだったのか考えさせる。</li> </ul>	
10 11	<p>○本時の学習課題を捉える。  <b>課題</b>          どこで気持ちが変わったのかが分かるように、あらすじと感想を書こう。          ○「ごんぎつね」のあらすじを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の気持ちの変化を入れたあらすじを書かせる。</li> <li>・読書感想文、あらすじ(長くて良い)と自分の経験を重ねてもう一度感想、物語から学んだこと、自分が理解したことを書かせる。(感想の再構築)</li> </ul>	<p>◆友達の感想や考えを聞き、考え方に違いがあることに気付いている。(記述・発言)【思】</p> <p>◆物語から考えたことや学んだことを自分の経験と結び付けて読もう</p>

	○本時を振り返り、次時への見直しをもつ。		としている。(記述)【思】
12	○本時の学習課題を捉える。 ○書いた作文を交流する。 ○本時を振り返る。	・付箋で感想を伝えあう。	

## 7 本時の指導 (8/12 時間目)

### (1) 本時のねらい

「4」「5」の場面を読み、ごんの行動について叙述を基に捉え、その時のごんの気持ちを想像することができる。

### (2) 本時の展開

学習活動	◎指導上の留意点	◆評価 (方法)
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時の課題をもつ。 課題① なぜごんは二人の後をついていったのだろう。 課題② 「神様のしわざ」と言われたとき、ごんはどんな思いだったのだろう。</p> <p>3 教師の範読を聞きながら、ごんごんの気持ちの変化が読み取れるところにサイドラインを引く。</p> <p>4 本文を自分で読み直して自分の考えを書く。</p> <p>6 全体で考えを共有する。 課題① C：月がきれいだから散歩したい。 C：兵十と加助が俺の話をしている。 C：もっと話を聞きたい。 C：おれがくりや松たけを持っていっていると、そろそろ気付いてほしい。 課題② C：兵十たちは何も分かっていない。 C：よく考えれば分かるはずなのに。</p>	<p>◎ごんの心情が変化、ごんの償いの仕方が変わったことを押さえる。</p> <p>◎単元計画にあるめあてを確認する。</p> <p>◎初発の感想から出た疑問をもとに、課題を設定する。</p> <p>◎どの叙述から考えたのか根拠が分かるようにする。</p> <p>◎情景からごんの思いを考えるようにさせる。</p> <p>◎根拠となる叙述を明らかにしながら自分の考えを伝える。</p>	<p>◆場面の場面を結び付けたり比べたりして、登場人物の気持ちの変化を読み取っている。(記述・発言)【思】</p> <p>◆情景描写や会話等の表現や叙述を基にして、登場人物の気持ちを想像している。(記述)【思】</p>

<p>C : 神様は何もやっていない。  C : おれに感謝してほしい。  C : 自分がやっていると分かってほしい。  C : せっかく仲間だと思ったのに。</p> <p>7 本時の活動の振り返りを書く。</p> <p>8 本時の振り返りを交流する。</p>	<p>◎考えを書けなかった児童には友だちの良い意見を書き写すよう声を掛ける。</p> <p>◎TOYAMA の基準で振り返りを行う。</p>	
--	--	--

(3) 板書計画

ホワイトボード

ごんは、兵十のことをこんなに思っているのに、兵十は何も気付いてなくてごんはがっかりした。

挿 絵

- 月がきれいだから、散歩したい。
- 兵十と加助が、おれの話をしている。
- もっと話を聞きたい。
- おれがくりや松たけを持っていつてると、そろそろ気付いてほしい。

課題①

ごんはなぜ、あとをついていったのだろう。

課題② 「神様のしわざ」と言われたとき、ごんはどんな思いだったのだろう。

- つまらないな。
- おもしろくない
- 引き合わない
- 割に合わない
- 兵十たちは何も分かっていない。
- よく考えれば分かるはずなのに。
- 神様は何もやってない。
- おれに感謝してほしい。
- 自分がやっていると分かってほしい。
- せっかく仲間だと思ったのに。

電子黒板

〈教科書の本文を提示〉

おれは引き合わない

つまらないな。

ついていきました

かげぼうしをふみふみ

井戸のそばにしゃがんで

かくれてじつと

ぶらぶら遊びに

月のいい晩

〈授業を観察する視点①〉

- ・ 細やかな情景描写へ着目することで、児童は人物の心情を豊かに想像することができたか。

〈授業を観察する視点②〉

- ・ 「TOYAMA」の視点や文例があることは、児童が自らの学びを振り返る上で有効だったか。